

昭和 10 年当時の西成村の姿

明治 22 年に町村制が施行された当時、今の一宮市東部から犬山市の東境にまで及んでいた広大な「丹羽郡」。その丹羽郡の西の端に「西成連区」の前身である「西成村」が誕生したのは明治 39 年（1906）のことでした。

その丹羽郡西成村の中の更に西の端にあったのが「丹羽村」（今の「丹羽」）でした。丹羽郡内の丹羽村に^{にわ}邇波神社があるのは歴史ロマンです。

明治 39 年当時、丹羽郡の北から北西にかけては「葉栗郡」が隣接、西から西南にかけては「中島郡」が隣接していました。

丹羽村の西南に隣接していた「一宮村」は中島郡の中核地であり、明治 22 年には早くも「一宮町」となり、大正 10 年（1921）には「一宮市」に生まれ変わりました。

西成連区の前身である西成村は、村中挙げての熱心な運動の結果、昭和 15 年（1940）にめでたく一宮市に編入されました。今から 70 年以上も前のことです。当時の西成村はどんな姿をしていたのでしょうか。

昭和 10 年の西成村の地図をご紹介します。地図の裏面には西成村の要覧として、村の地理・歴史・人口などのデータが記載されていたので併せてご紹介します。

詳しくは添付の PDF ファイルから印刷してご覧ください。